

1 地図読み

「人も多いし登山道も整備されている。遭難するほど道に迷うことなんてまずないでしょ」

そう思っている人も多いはず。
しかし、実際には低山でも道迷いによる遭難者が後を絶たない。

「万が一自分がどこにいたかがわからなくなったときのために、『お守り』のつもりで、コンパスと地図は持っておくか」などという心持ちでいたら、いざというときに大きな後悔をすることになる。

山では、なにより自分の居場所を見失わないことが大前提だ。完全に見失ってからは、日ごろ使い慣れていないものがコンパスと地図を駆使しても、それを見極めるのは、技術的にも、精度的にもとても難しい。

コンパスと地図は、自分の居場所がわかったうえで、進行方向を正しく把握するために使うもの。そしてそのためには、地図から得られる情報を正確に把握する知識が必要だ。

ただし、地図読みは奥が深い。
すべてを完全に理解しようとするにはそれなりに時間がかかる。だからまずは、道迷いを遭難に発展させないため、自分の進む方向を確認するために最低限必要な知識を身につけておこう。

そして、その知識を実践でトレーニングすることが重要だ。「よし、この道で間違いなし」と、どんな状況でも自信を持っていえるまで、繰り返し練習あるのみ。さあ、トレーニング開始。もうコンパスと地図を持たずに山には入れない！

1 基本の「キ」

いまさら人に聞けないことや間違っ覚えていても気付かないこと、しっかりと基本をおさえているつもりでも山ではいろいろなことが起きる。改めて確認することが大切だ。

①地図ではつねに上が北

常識だが地図読みをしているうちにコンパスを逆方向に合わせてしまうことがある。つねに上が北の向きに印刷されていることを意識しておく必要がある。

②等高線は同じ高さの場所を結んだ線

等高線は、25,000 分の 1 地図の場合 10m 間隔で引かれている。同じ高さを結んだ線ということは、等高線に沿って歩けば高さの変わらないトラバースということ。逆に等高線を横切るように歩けば登り、もしくは下りになる。

等高線の間隔が広いところは緩斜面、狭いところは急斜面だ。地図上の沢にいつも水があるとは限らない。地図上に沢の表記はあっても、そのときの条件で水の量には差がある。

また、表記はされていなくても水が流れていることも。あくまで水の有無ではなく、地形で判断しなくてはならない。

2 地図上の 1 cm を実際の距離に置き換える

「地図のここからここまで、大体どのくらいの距離だろう?」。急に聞かれてパッとイメージしにくいのが、等高線の間隔、尺度を把握しておけば地図中の縮尺目盛りを探さなくてもおおよその距離を算出できる。

①地図上の 1 cm は、縮尺の末尾ゼロを 2 つ隠した数字 (メートル)

つまり
【1/25,000 なら 1 cm は 250m】
【1/50,000 なら 1 cm は 500m】
ということ。

これがわかれば、25,000 分の 1 地形図では「4 cm が 1 km」、50,000 分の 1 地図では「2 cm が 1 km」となり、パッと見たときにおおよその距離をすぐにイメージできる。

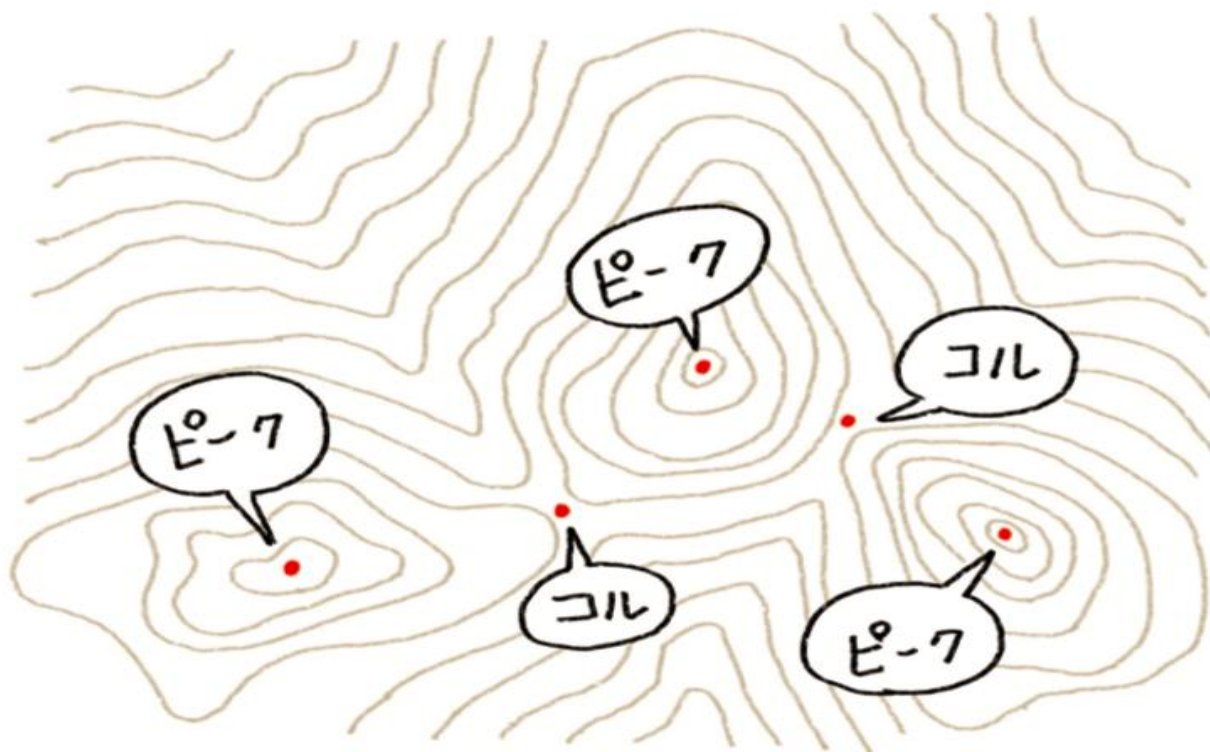
「次の分岐までだいたい 2 km だな」、「1 km 歩くのにだいたい〇分かったな」などというコースタイムや移動速度などの判断の材料になるわけだ。

3 等高線と山の形の関係を知る

普段、街中で地図を読むときは、「2つめの角を左に曲がって大きなビルを右折……」など目標物を目安に判断することが多い。しかし、山ではそうはいかない。

山で地図を読むということは、等高線を頭のなかで立体化して地形の起伏をイメージするという。つまり等高線からどれだけ多くの情報を得られるかが地図読みのキモ。等高線を制するものが地図を制するのだ。

①ピークとコル



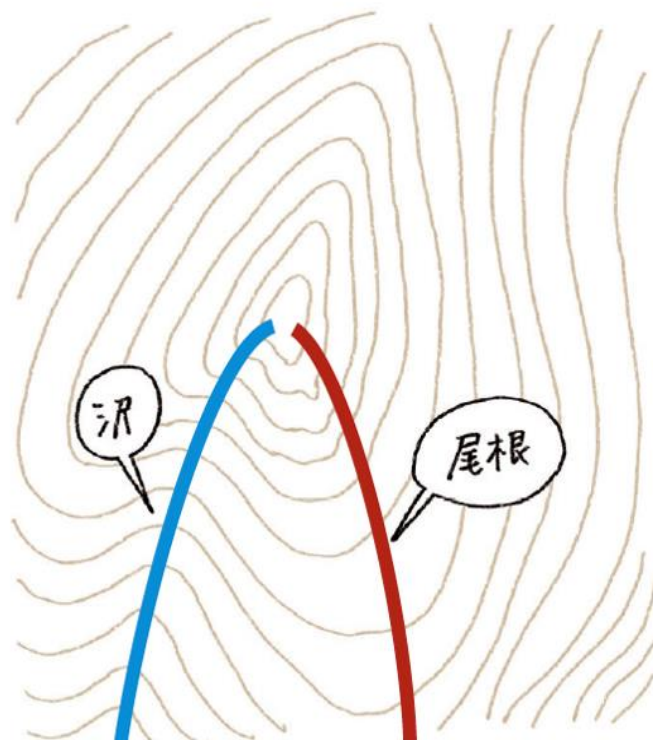
登山道で「ああ、ここまで下りでラクだったのにまた上りか」とうんざりするあの瞬間、その場所がコルだ。逆につらい登りを終えた頂点がピーク。このふたつを地図上で確認してみよう。

ピークは、等高線が丸く閉じたところ。地図上でもっとも探しやすいだろう。近くにあるピークをふたつ探し、そこから広がる等高線を見ていくと、両方から伸びる等高線がもっとも接近したところ、これがコルだ。

ふたつのピークの間でもっとも低い位置といえる。

ピークの周りをよく見ると、等高線が外側に突き出すように伸びている部分がある。この突き出た部分を順に追ってつないだ線が「尾根」だ。実際の地形では両側が開け景色を楽しめるところも多い。

②尾根と沢



ピークの周りをよく見ると、等高線が外側に突き出すように延びている部分がある。この突き出た部分を順に追ってつないだ線が「尾根」だ。実際の地形では両側が開け景色を楽しめるところも多い

尾根の先が次のピークまでつながり、どんどん続いていく大きな尾根の連続を「稜線」と呼ぶ。「沢」は、尾根と尾根の間にはさまれた低い部分だ。地図で見ると、尾根とは逆に、ピークに向かって等高線の一部が極端に食い込んでいる部分。

等高線の形状は似ているが地形はまったく逆。ピークを中心に、向きに注目すれば尾根と沢を見分けることができる。

4 地図の記号を知る

地図記号は危険な箇所を判断するときや、植生を判断するとき、避難小屋を探すときなどにも役立つ。予定外の岩がけや荒地などに踏み込まないように気をつけよう。

